疏水散策 大津から岡崎界隈へ

京都の近代化を牽引し、今も京都市民の暮らしを支える琵琶湖疏水。そこには豊かな自然や明治・大正期のレトロな建築物、そして長い歴史を刻む神社仏閣などが随所にあり、一年を通じて趣ある情景を楽しむことができます。

夷川発電所（えびすがわはつでんしょ）

琵琶湖疏水にある10カ所の舟溜の中で最大規模の夷川舟溜の周辺には、1914年（大正3）に建設されたルネサンス様式の赤レンガづくりの夷川発電所や、琵琶湖疏水建設に尽力した北垣国道第3代京都府知事の銅像があります。

琵琶湖疏水記念館（びわこそすいきねんかん）

疏水竣工100周年を記念して1989年（平成元）に開館。疏水関連の資料を展示し、その歴史や意義を紹介しています。

蹴上発電所（けあげはつでんしょ）

日本初の事業用水力発電所で、水力発電により得られた電力による工業生産や電気鉄道など、京都発展の一大原動力となりました。毎週金曜日には事前予約で敷地内や建物の中を見学できます。

・毎週金曜日　①10:00〜、②13:30〜

・無料　・定員各20名（先着順）

ねじりまんぽ

「まんぽ」とはトンネルを意味する古い言葉で、インクラインの下を通り、南禅寺に向かう歩行者用トンネルです。渦を巻くような形でらせん状にレンガが積まれています。

蹴上浄水場（けあげじょうすいじょう）

日本初の急速ろ過方式を採用した、京都で最初にできた浄水場です。水道水の原水は第2疏水から取水されています。

インクライン

全長582mの世界最長の傾斜鉄道跡です。蹴上船溜と南禅寺船溜の間にある高低差約36mの坂地で、疏水を行き交う舟を台車に乗せて運ぶために設置されたものです。

旧御所水道ポンプ室（きゅうごしょすいどうぽんぷしつ）

御所水道は、京都御苑で利用する用水を琵琶湖疏水から送るための水道施設で、旧御所水道ポンプ室は琵琶湖疏水から水を汲み上げるポンプが設置された施設です。1912年（明治45）年に完成したネオルネサンス風の建築物です。（「びわ湖疏水船」乗下船場）

南禅寺（なんぜんじ）

臨済宗南禅寺派の本山で、室町時代は隆盛を極め、京都五山、鎌倉五山の上におかれる別格扱いの寺院に列せられました。境内には石川五右衛門で知られる三門（重文）をはじめとする多くの伽藍が立ち並び、その周辺に12の塔頭が並びます。

田邉朔郎像（たなべさくろうぞう）

琵琶湖疏水建設工事の主任技師として活躍した田邉朔郎の立像で、付近には疏水工事で殉職した人々の慰霊碑もあります。

水路閣（すいろかく）

疏水分線に水を通すためにつくられた高架水道橋で、分線に沿って北上すると「哲学の道」に続いています。レンガを用いたアーチ構造のデザイン。京都を代表する人気の観光スポットです。

天智天皇陵（てんじてんのうりょう）

数多い京都の天皇陵の中で一番古いとされています。天智天皇は日本で初めて時計を設置した人であったことから、入り口付近には日時計が設置されています。

安祥寺（あんしょうじ）

疏水べりにある寺社の中では最古の寺院で、848年に創建されました。日本最古の「木造五智如来坐像（国宝）」や「十一面観音立像（重文）」が安置されています。（通常非公開）

毘沙門堂（びしゃもんどう）

江戸時代前期に京都出雲路あたりから移された古刹で、門跡寺院として崇敬を集めています。

疏水公園（そすいこうえん）

旧・諸羽舟溜で、湖西線の開通とともに公園として整備されました。

四ノ宮舟溜（しのみやふなだまり）

舟運の荷揚げ降ろしや人の乗り降りなどのための舟の停泊所です。周辺は紅葉やイチョウが美しく、「びわ湖疏水船」の山科乗下船場となっています。

第2竪坑（だいにたてこう）

トンネル内の空気取り入れを目的につくられたものです。

第1竪坑（だいいちたてこう）

当時日本最長となる第1トンネルは、トンネルのほぼ中間の山上から垂直の坑道（竪坑）を掘り下げ、そこからトンネルを掘り進めることで工期を短縮することができました。第2竪坑とともに、国の史跡に指定されています。

＊詳しくはマンガ「琵琶湖疏水ができるまで（その1）」パネルをご覧ください。

三井寺（みいでら）

天台寺門宗の総本山。境内に天智・天武・持統の三天皇の御産湯に用いられたとされる井戸があることから、「御井（みい）の寺」と称され、後に「三井寺」と通称されるようになりました。

第1トンネル洞門（だいいちとんねるどうもん）

大津から京都に抜ける第1トンネルは約2.4キロ。貫通に2年を費やし、当時日本一の長さを誇りました。トンネル上部には、伊藤博文が揮毫した「気象萬千」（意味：千変万化する気象と風景の変化はすばらしい）の扁額があります。

長等神社（ながらじんじゃ）

天智天皇が大津京を築いた頃に都の鎮護として創建されたといわれています。朱塗りの楼門は大津市指定文化財です。

大津閘門（おおつこうもん）

閘門とは高低差のある水路に舟を通すために水位を調整する門を言います。建設当時、日本ではまだ珍しかったレンガ造りの本格的閘門として注目を浴びました。当初の門扉はヒノキ材で、4人がかりでハンドルを回し開閉していました。